alaクルーズ

広報第 10 号
平成 17 年 4 月 1 日

NPO法人
ala クルーズ 設立記念式典

ala クルーズは昨年 11 月に NPO 法人となり、新たな活動を展開しています。1 月 16 日に NPO 法人 ala クルーズ設立記念式典がレセプションホールで開催され、31 名の会員が参加しました。山田市長、井戸教育長、桑谷館長、篭橋次長、坪内課長を来賓に迎え、奥村峰隆理事の司会で午前 11 時に始まりました。

最初に澤野理事長の挨拶があり、NPO 法人としての今後の活動の抱負が述べられました。続いて千藤理事から NPO 法人化にいたった経緯が報告されました。その後、来賓から御祝辞をいただきました。特に山田市長からはアーラの計画から建設にいたるまでの色々な苦労にも触れられ、今後の ala クルーズの活躍におおいに期待していると述べられました。

式典は約 30 分で閉会し、引き続き交流会が開催されました。会場の雰囲気も和やかになり、島田副理事長、篭橋次長の挨拶の後、坪内課長の乾杯の音頭で始まりました。5 卓のテーブルに分かれての歓談でしたが、久しぶりに会う会員同士で随分賑やかな会場でした。アトラクションとしてマジックショーが行われました。次々に現れる鳩のマジックからトランプ、ハンカチ、リングなど多彩なマジックにみんなもしばしおしゃべりを止めて見入っていました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、交流会は終了しました。

戻る

クルーズコンサート Vol. 1

Prisca Molotsi

プリスカ・モロツィ

3月6日（日）午後2時30よりアーラ小劇場でプリスカ・モロツィのコンサートが行われた。小劇場がほぼ満席となる大盛況、自由席だったので開場前からすでに長蛇の列ができていた。

コンサートは、ジャズ・ゴスペル・ブルース・ポップスなどさまざまなジャンルの曲を楽しく、ときにはパワフルに、ときにはしっとりと歌い緩急自在なステージングで観客を魅了していた。曲目は皆がよく知っているものばかりだったので、かまえることなく聴く事ができ、すっと心に響いて楽しむ事ができた。圧巻はボォーカル・ピアノ・ベース・ドラム、4人のセッション。何よりも演奏者たちが楽しんで演奏しているようで、観客もそれぞれに自由なノリで楽しみつつ、なにかしらステージと一体感があり、ライブハウス的な感覚が味わえた気がする。

歌が大好きで4歳の時から母国のTV局にも出演していたという彼女。国連の研究員として初来日のときには半年で帰るはずだったのに18年も経ってしまい、今では家族もいる。日本の古い歌も好きで、日本の唱歌を英語バージョンにして歌っているCDを輸入して聴いているそうだ。途中歌われたその曲も今では日本人でさえあまり聴く機会が無くなった曲で、それを英語で聴かされるととても新しいような懐かしいような不思議な感じがした。

自分の好きな歌、みんなが好きな歌、コンサートやライブでは必ずそういう選曲をする、日本語の歌はやっぱり難しいし発音を間違えたりもするけれど、大好きだから歌い続けると言っていた。そんな心が伝わってくるステージだった。

戻る

クルーズコンサート－会場の声

・人柄がよく伝わってきてすばらしかった。また是非コンサートを聞きたい。こうしたコンサートを企画して下さい。　　（50 代、男性、名古屋市、公務員）
・美しい歌声。自由と幸せのために歌うと言いました。とても感動しました。少しでも多くの人に歌って下さい。のりのりで楽しみました。
（60 代以上、女性、御嵩町、主婦）
・ステージ上が楽しさであふれてでていて、こちらまでパワーをもらって帰ります。人間好きな事をし、楽しむのは最高で～す。（50 代、女性、関市、パート）
・知っている曲が多くてよかった。
（50 代、女性、可児市、会社員）
・思わず涙が出ていました。とても感動しました。
（10 代、女性、可児市、学生）

書展　1月19日（水）～24日（月）　入場者381名

４回目となったシリーズ「心にひびくものたち」今回のテーマは『書』です。いわゆる「書道家」の書ではなく、画家、陶芸家、詩人、宗教家、僧侶などの書です。「書は人なり」と言われますが、展示された作品を見ていると、その人の思い、人生までもがにじみ出てくるように感じられます。

なかでも、野口しか（野口英世の母）の書は、文字を知らなかった母が息子に帰ってきて欲しい一心で文字を覚え書いた手紙で、読んでいくうちに熱いものがこみ上げてきました。また、宮沢賢治の有名な詩「雨ニモ負ケズ…」。これは死後発見された小さな手帳に書かれていたものです。活字では何度も目にしていましたが、実際に手書きの文章を見ると、この詩が、熱心な信仰者であった賢治の「こうありたい」という心からの願いであったと実感できます。

回を重ねるごとに実感するのは、作品を鑑賞するのに、難解な理屈や解説は必要ないということです。ガラスごしではなく、直に作品に手を触れ、作品の息遣いが感じられる程小さなこの空間で、何の先入観もなく無心で作品に向き合う時、静かに『心にひびく』声が聞こえてくるのです。

書展－会場の声

・こんなに素晴らしい作品に出逢えて本当に幸せなひとときでした。本物に出逢う。
・いつものことながら、満足して心ゆたかに帰ります。
・こういうものを見せていただく機会は少ないので、とてもうれしゅうございました。書は故人にお会いできた思いがいたします。静かにお話も聞けて深い安らぎをいただきました。
・良い作品をガラスごしでなく見ることができて、とてもうれしいです。反面大変なことも多いかと思いますが、これからも続けていただけることをお願いします。
・ありがたかったです。なかなかお目にかかれない物です。

戻る

介助研修

１月１３日、支援グループが可児市社会福祉協議会の方を招いて介助研修会を行いました。研修内容は「車イスの取扱い」「歩行介助」など、疑似体験を交えて学びました。車イスについては、使用方法・収納の仕方・手足をはさまないような保護の仕方など。歩行介助については、肩や腕に手を添えてもらい、歩く速さ・障害物などに注意しながら指定場所への案内。高齢者擬似体験では足，腰、腕に５～6kg の錘をつけたり、特殊な眼鏡をかけて歩きました。自分が体験する事で、今後のフロントスタッフとしておおいに役立つでしょう。

シネコレ 今後の予定

平成 17 年 10 月２日（日）

●篠田正弘監督による、講演会と映画上映

…岐阜県出身の篠田監督の講演を聴き、作品「瀬戸内ムーンセレナーデ」を上映します。

平成 17 年 12 月 17（土）　18 日（日）

●「無声映画の弁士になろう」体験教室

…30 人程度で市内の小学生対象にワークショップを行います。

●「佐々木亜希子による無声映画上映会」

…３回目の無声映画上映を実施。短編１長編１の２本を計画中

通常総会のお知らせ

日時　平成 17 年５月 22 日（日）
　　時間未定
場所　レセプションホール

お詫びと訂正

シネマ＆トーク	フロントスタッフ交流会
四之宮監督　誤	籠橋次長　誤
四ノ宮監督　正	篭橋次長　正

お詫びして訂正いたします。

編集後記

本誌の企画会議は、暖冬から一変寒波襲来となった１月です。それぞれの役割分担が決まり活動を始めました。春一番が吹く２月、一方で寒い日が続き、三寒四温を実感しました。もう、早く暖かくなればいいのに・・・。この編集後記を書いている今日は弥生三月も半ばを過ぎたぽかぽか陽気の日です。本誌が皆さんのお手元に届く頃は桜の便りが伝わっていることでしょう。いつまでも愛していただける紙面づくりに広報グループは努力していきます。　（T．N）

戻る